

カガヤキ

暫定的補足表題「ウオランタス」
ラテン語でボランティアの意

No.72(2023.7.15 刊行)、広報委員会編集
茨城県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

あらゆる意味での「つながり」 茨城県図書館情報ネットワーク構築

茨城県立図書館副館長 木村 一



木村 一さん

皆様はじめまして。2023年4月より茨城県立図書館の副館長に赴任してまいりました木村 一と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。ちなみに名前は、「はじめ」ではなく、「ひとし」と読みます。

ボランティアの皆様には、日頃から、図書館でのボランティア活動において、大変、お世話になっております。図書館に来て2ヵ月が過ぎましたが、皆様のご協力なくして図書館の運営は、出来ないと言っても過言ではないのではないかと感じております。今後も、私どもとともに、県立図書館が茨城の文化や教養の発信拠点となるようご協力をいただければ幸いです。

副館長のいちばん大きな役目は、利用者そしてボランティアの皆様を初め、図書館で働く職員が、安全で安心して利用し仕事ができる環境を整えることであると思っております。そのため、予算の許す限りではありますが、施設設備の充実に努めるとともに、職場においての潤滑油になれるように努めてまいりたいと考えております。皆様も活動をしている中で、施設面などで気がついたことがあれば、担当する職員を通じてでも良いので、お知らせください。なお、今年の私の個人的な目標は「フレンドリー図書館」です。職員同士、あるいは職員とボランティアの方々と、何でも話し合える関係にしていきたいと思っておりますので、そちらにもご協力をお願いいたします。

さて、私事ではございますが、図書館で勤務するのは今回が初めてです。しかし、まったく縁がなかったわけではなく、今の図書館がリニューアルオープンした直後の20年くらい前に、図書館の主管課であり

ます県生涯学習課に勤務しておりました。

生涯学習課での4年間の勤務のうち、3年間は、茨城県で開催された生涯学習フェスティバルを担当しておりましたが、最初の1年間は、図書館を含む県社会教育施設の施設整備を担当するグループにおりました。同僚が図書館を担当していたのですが、当時整備が進められていた、県立図書館と県内市町村立図書館の蔵書検索が一度にできる「茨城県図書館情報ネットワーク」システムは、私の担当でした。

とは言っても、既に外枠は出来上がっており、また、当時の図書館情報資料課の担当職員がほとんど進めてくれましたので、私自身は詳細の詰めと入札業務が主でしたが。当時も今も多少ご意見をいただくこともある同システムですが、初めて検索して検索結果の画面が表示された時は、何とかできたなと言う安心感を覚えた記憶があります。

開発当時の参加館は、県立も含め31館だったものが、現在は約2倍の60館となっており、開発の目的である「県内の公共図書館をあたかもひとつの巨大な図書館のように」し、県民の皆様が居住している市町村以外の図書館もより利用しやすくすることができたのではないかと考えておりますので、皆様も、ぜひ、「茨城県図書館情報ネットワーク」をご活用いただくとともに、ご家族やご友人にもご紹介ください。

もうひとつ私事で申し訳ありませんが、私は、中学生まで、本を読むのが嫌いでした。小学校の夏休みで出される読書感想文の宿題が、本当に苦痛で、他の宿題は、お盆前には終わらせていたのに、読書感想文だけは、最後まで残っていました。最初の

方とあらすじを読んで読書感想文を書いていたのは私です。

そんな私が、高校生になって、授業中も本を読むようになったきっかけは、ひとつ上の姉が持っていた今で言うライトノベルでした。単純に文字数が少なく、読みやすかったからでしょうけど、話も面白くて一晩で読んでしまうこともありました。それから高校の図書館で借りた「武田信玄」から歴史物に行き、次にSF物と色々な本を読むようになりました。残念ながら今でも純文学といわれるようなものは苦手ではありますが。そのようなきっかけのため、50歳を過ぎてもたまたまライトノベル読んでいます。この年になって、高校生の恋愛ものを読んでいるのは自分でもちょっと変かなと思うときもありますが、好きなものは好きと割り切ってまた買いに行ってきます。

ちなみに姉は、小学1年か2年のころには「赤毛のアン」シリーズを読んでいたほどの読書家です。同じ環境で育っているにも関わらずこんなに違うのはなぜでしょう。図書館にいる間に調べてみようかと思っています。

子供の頃の記憶から 今があるのは先人の知恵の恩恵

情報資料課長 茂木 功

この執筆依頼があった時、日々、締め切りに追われる漫画界のレジェンドの手塚治虫さんのことを思い出しました。何も書く物が思いつかない、刻一刻と締め切りが迫ってくる焦り。そうしたら、手塚治虫原作の『ブラック・ジャック(Black Jack)』に対し、AI(artificial intelligence、人工知能)を使って新作を発表するとの報道がありました。

ブラック・ジャックもパソコンやスマホを使いこなしているそうです。隔世の感があります。今でしたら、ChatGPT(GPTとは、Generative Pre-trained Transformerの略であり、直訳すれば、生成学習型変換器)に対し、「すぐに原稿を書いてくれ」と問えば、スラスラと書いてくれるのかもしれない。

ブラック・ジャックは、医師の資格がないのにも関わらず、難しい手術をこなして人の命を救います。そのかわり法外な報酬を要求しますが。うろ覚えなのですが、舞台は、未来の話で、全世界を掌握する巨大なコンピュータが動かなくなり、それをブラック・ジャックが診察し、不具合のある箇所を特定し、部品を交換して、無事に、動き出すというストーリーがあったように思います。

ブラック・ジャックは、人だけでなく、機械も直して人類全体を救うことの壮大さに驚くとともに、このようなストーリーを

描けたことの見識は、目を見張るばかりです。

手塚治虫さんの代表作に『火の鳥』があります。小学生の時に憧れの先生がいて、火の鳥のことを話していたのを覚えています。でも、当時、「火の鳥」が何なのかは、まったく分かっていませんでしたし、分かつともしませんでした。

毎日、日暮れまで外で遊んで、土曜日に「全員集合」を観て、日曜日に「笑点」と「サザエさん」を観て、週明け、学校に行き、憧れの先生に会えるということのくり返しでした。

時を経て改めて読んでみましたが、壮大な作品でした。舞台が古代から未来、進化、宇宙まで、「火の鳥」は、何度でも蘇えり、時空を超えて生き続けます。小学生当時の自分には理解できなかったと思います。

本や音響や映像資料は、時間、空間を超えて先人の知恵を私たちに教えてくれます。また、時を経てみると違った味わいを見せてくれることも魅力です。

図書館に勤務させていただいていることに感謝申し上げるとともに、このような執筆の機会を与えてくださったことに対し、ありがとうございます。

編集者注) 茂木さんは、手塚治虫さん(漫画家)のふたつの作品(『ブラック・ジャック』と『火の鳥』)を例に、いま読み直してみて、前者は、今日の複雑高度な機械文明論、さらに、後者は、時間空間を超えたスケールの大きな文明論になっていることに気づき、年齢を経て、本当の意味が理解できるようになり、図書館は、先人の知恵が詰まった宝庫であることを示しています。

父の書齋

館内サービス課長 武田 順



武田 順さん

それは、1973年に、二階を増築したおりに、応接間として設けられたものと記憶しています。母の使うピアノも、その部屋にあって、ピアノを教わりにくる児童生徒の出入りがあったり、時には、米国からのお客様であったりと賑やかな空間と子供心に認識していました。

数年後には、ピアノの大きさが変わることになって、二階に設置できないことから、ピアノは一階に場所を変えました。二階のピアノがあった場所には、木製の本棚（扉付き）が入ってきました。父は、そ

れまでも、一階にあった別の本棚に、それこそ目一杯の書物(奥行き前後二段置きからの上に平置きで重ねる)を有していて、そこに入っている書籍類を新しい本棚にいそいそと移動していました。そんな父の姿を見るにつけ、（この量は自分には読めない）と思ったものです。

自分には全く興味関心が無い分野の本ばかりで、手に取ることもしませんでした(読めば良かったのかもしれませんが、自分の人生が変わったかも)。

英語教育を生業にしていた父は、工業系ビジネス関連の英語本を数多く持っています。ライフワークにしていたW. ワーズワスの詩集や関連本、それ以外では、八木重吉関係書籍、キリスト教関係書籍(聖書、賛美歌、内村鑑三など)、短歌に関するものや松尾芭蕉関係本、旅行関係本が、本棚に在ります。

いつも、メモ帳とシャープペンシル、もしくは、ボールペン（その以前は万年筆）を持って、気がついた事は、何でもメモを取ったり、短歌を詠んだりしていたのでしよう。筆記具を持つ姿が思い出されますが、遺した膨大な手書き資料もありました。

他には、音楽関係資料。LPレコードに始まり、カセットテープ、CD、DVD、VHSなどの音源、映像の類。父は、自分で奏でることの無い分、聴くことは好きで(機嫌が良いと口笛をよく吹いていました)、歌曲やフルート、パンフルート、ピアノなど、アンサンブルやソロ曲が好みで良く聴いていました。ピアノが一階に入った後から、二階の応接室はその役割を一階に移し、二階は父の書齋化が加速していき

ました。

2018年2月に82年の生涯を閉じた父は、膨大な数の資料類を遺していきましが(膨大と言っても、立花隆さんほどでは無いですが)、没後丸5年を経過して、未だにこれらの資料は棚に入ったままです。自分も書斎に行くたびに「何とかしなければならぬ」と思うのですが、整理は遅々として進まず、家人に相談もしてみました。「置くところがあるなら...そのままでも良いのでは」と言われる始末で、ほとんど手つかずの状態です。

父が集めた物は、父にしかその価値を見いだすことはできず、少なくとも、母、自分、孫、誰一人活用することができません。時間経過とともにそれら資料の鮮度も薄れていきます。ましてスマホ世代である孫に至っては、父が集めたものの価値を見いだすことは不可能に近いでしょう。

原稿状態で残っている書き貯めた手書きの資料などは、あまりに達筆な文字で私にはさっぱり読めず、さらに日記などは、英文筆記体で書かれているので、断片的にしかりません。

父の亡くなった当初は、処分してしまおうと思っていたのですが、その他の手続きに時間を割かれている間に、もしかしたら捨てられないかもしれないとの思いが強くなってきて、現在に至ります。二拠点生活を送っている自分には、週末などのまとまった時間も有効に作れないまま、棚に入ったままの多くの資料を、どうしたものかと思案にふけながら、日々、生活をしているのです。

コロナ禍で感じたこと

広報 G 桜井 淳

中国武漢を起源とされるコロナウィルス感染が日本でも報じられるようになったのは、2019年12月のことであり、2020年3月には、感染第一波の増加傾向の時期、2020-22年と、3年間、まだ、解決されたわけではなく、緩和しつつ注意しなければならぬ時期にあり、これまでの3年間に、社会的に、コロナに起因する不快なさまざまな活動制限がなされました。

コロナウィルスワクチンは、問題が発生した1年後には、英国ファイザー社と米国モデルナ社から販売され、世界で採用されましたが、両メーカーは、因果関係を認めていませんが、日本での死亡者割合は、ファイザーが、100万人あたり19人、モデルナが100万人あたり1人、死亡しなくても何らかの身体異常を訴えた割合は、死亡者割合よりも少なく見積もっても1桁くらい多いと推定されます。

両社は、短期間にワクチンを開発しましたが、日本と英米では、緊急時における新薬に対する許認可の考え方が異なり、両社の臨床試験の詳細内容は、公開されておらず、日本では、厚労省薬事・食品審議会で審議されました。私は、2020年1月以降の議事録を吟味したところ、具体的なリスクや信頼性については、何も審議対象になっていませんでした。

コロナウィルス感染者数は、再度、増加傾向にあり、2023年夏頃、第九波が予想され、まだまだ、制限下にあります

海外図書館での日本文学作品

読者 A

日本文学作品が海外でどれほど評価されているのか興味があったので、筆者もかつて利用したことのある米国テネシー州のノックス郡公立図書館のウェブサイトから、所蔵されている日本文学作品を調べてみた。

ちなみに、米国の大学の図書館は、日本文学を学術的に研究する観点からか、日本で容易に入手できる日本文学の書籍は、ほぼ、所蔵されているので、ここでは敢えて一般の読者が利用している公立図書館を対象としている。調査対象の作家は、夏目漱石、川端康成、三島由紀夫、安部公房、遠藤周作、村上春樹とした。いずれも英訳本である。

夏目漱石：吾輩は猫である I am a cat、心 Kokoro。

川端康成：富士の初雪 First snow on Fuji、古都 The old capital、千羽鶴 Thousand cranes、掌の小説 Palm of the hand stories。

三島由紀夫：宴の後 After the banquet、禁色 Forbidden colors、暁の寺 The temple of dawn(以前、利用した時に書架にあった『潮騒』 Shiosai がどういいうわけかない)。

安部公房：燃えつきた地図 The ruined map、方舟さくら丸 The ark Sakura、砂の女 The woman in the dunes。

遠藤周作：沈黙 Silence、深い河 Deep river、侍 The samurai、最後の殉教者

The final martyrs、わたしが・棄てた・女 The girl I left behind。

村上春樹：ノルウェーの森 Norwegian wood、1Q84、ねじまき鳥クロニクル The wind-up bird chronicle、走ることに
ついて語るときに僕の語ること What I talk about when I talk about running: a memoir、色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年 Colorless Tsukuru Tazaki and his years of pilgrimage。

なお、日本の公立図書館の休館日は、年間約 70 日程度のものであるが、米国では、蔵書整理のための休館日などはなく（どのように整理しているのか?）、休館は元日、独立記念日、感謝祭、クリスマスなどの祝日のみで、年間 15 日程度である。平日は午後 8 時ころまで開館している。

上記の三島由紀夫の『暁の寺』は、自決した日本の学生が転生したとするタイ王女を扱っている。タイ王国では、王室に言及することは禁忌とされているので、発禁になっているのかと思ったが、タイのチュラロンコン大学の図書館を調べたところ所蔵されていることが分かった。

編集者注) Aさんは、茨城県立図書館の利用者、通信紙の読者で、テネシー州立テネシー大学留学経験があり、大学の図書館の蔵書、特に、日本の新聞や月刊誌のみならず、日本の代表的な作家の英訳本の種類や内容まで把握しており、私の MIT とカリフォルニア大学とスタンフォード大学の図書館での経験と共通することもあり、懐かしくも共通の問題意識もあり、特に、米国大学の図書館は、年間 15 日の休館に対し、日本の年間 70 日の多さに驚き、差異は何か、考えさせられます。

コロナ禍を乗り越えて

Zoomによるオンライン・ミーティング

水戸キリストの教会 鈴木 博之

私は、旧茨城県庁の近くにある水戸キリストの教会で執事を32年間、代表役員（兼任）を13年間続けており、以前、依頼により少なくとも2回、県立図書館ボランティア通信紙（かがやき）に寄稿した事があるが、今回の寄稿も、主に、水戸キリストの教会に関する事柄となる。

コロナ禍中における礼拝など

水戸キリストの教会では、新型コロナの感染者が増えてきた2020年(令和2年)に、3月22日から、日曜礼拝をZoomによる録画配信およびYouTube配信を用いたオンライン(リモート)礼拝に切り替えた。日曜礼拝は、これまでどおり、午前10時から、オンラインで行い、教会員は、その時間に視聴するのが基本であるが、その後でも、YouTube配信で、視聴可能とした。

礼拝中のプログラム(聖書朗読、祈祷、その他)は、事前に、各担当者から動画をインターネットで送って貰き、説教者は、外部への依頼分を除き、基本的に教会堂で説教(スライド含む)を録画し、讃美歌などを加え牧会スタッフが編集したものを配信した。

礼拝以外の聖書研究会やその他の集会も、基本的に、Zoom開催とし、対面での実施は、原則として、当分の間、中止と



春季合同礼拝の様子(2023.4.29)



最近の礼杯の様子(2023.6.4)

した。ただし、例外的に月一回のアガペーミニストリー(ホームレスなどの困っている方々への給食、日用品の配布他)は、他に適当な実施場所がないため、水戸教会の会堂内から駐車場に場所を変更して、瓜連キリストの教会、カトリック教会などと合同で実施し、それは、現在まで継続している。

また、献金については、常陽銀行の口座振込みなど、当分の間、教会の一階の事務室に直接届けて貰う方式とした。

その後、2020年(令和2年)7月頃からは、オンライン礼拝に加えて一部の希望者

が事前登録制で、会堂での礼拝に出席し、献金なども行える方式に変更した。そして、全体的なコロナ感染者の増減や政府の指針などを見計らって、2021年(令和3年)2月頃からは、事前登録なしで、教会での礼拝とオンライン礼拝(その後のYouTube配信を含む)のいずれかを自由選択できるようにした。

このやり方は、現在まで継続しており、2021年12月頃からは、教会での礼拝出席者の割合が大幅に多くなってきている。また、昨年度からは設備機器を整備し、牧会スタッフの努力によって礼拝のライブ配信が出来るようになった。これは今後も続ける予定である。

なお、オンライン礼拝方式を採用してからは、献金額が減少することを危惧していたが、感謝なことに、これまでのところ、何とか必要は、満たされている。ただし、コロナ禍が長引いているため、もし感染した場合に、重篤化する恐れのある比較的年長の方々を中心に、教会から離れるメンバーがある程度生じるという痛手もあった。

Zoomによるオンライン・ミーティング

コロナ禍により対面でのミーティングが長期間にわたって困難となったため、一般社会と同様に、教会内および教会間での会議、諸集会、合同礼拝などは、Zoomを使用してオンラインで行なう事が主体となっている。

具体的に、教会内では、毎月の執事会、聖書の学び会、結婚前のカウンセリング、洗礼に向けての学びなどがあり、キリストの教会グループ(Churches of Christ)に属

する日本全国の単立教会間では、毎年、恒例の合同礼拝(春季合同礼拝、秋期合同礼拝、伝道学院新年礼拝など)や夏季修養会、伝道者会、伝道学院の決算、予算理事会や評議員会などが、ここ3-4年ほど、Zoomを用いたオンラインで実際に行われてきている。

これは時間短縮や効率アップにつながるため、この傾向は、今後も続くと思われるが、最近では、今年(2023年)の4月29日(土)に、水戸キリストの教会が当番教会として、水戸教会の会堂を使用して開催した春季合同礼拝では、2019年4月末以来やっと4年ぶりに対面で、加えてオンライン(ライブ配信とその後のYouTube配信)のハイブリッド方式で実施することができた。

これには各教会から対面で参加された方々から多くの喜びの声が寄せられ、ようやくコロナ禍をある程度乗り越えられた思いがしている。今後、コロナ禍が早く完全に終息することを祈っている。

編集者注) 鈴木さんは、早稲田大学工学部機械工学科卒業後、日立製作所水戸工場にて、機関車設計エンジニアとして社会貢献、定年退職。鈴木さんは、人間として、人格的にも、ボランティアとしても、クリスチャンとしても、教会運営者としても、優れており、あらゆる面で、お手本のような存在です。

編集後記

通信紙 No.25 以降は、本文が「である調」、「編集後記」のみ、ソフトなイメージにするため、「ですます調」と定義しましたが、No.71 において、本文においても、試験的に、「ですます調」で編集し、本号でも、本文で、「ですます調」は、木村さんと茂木さんと武田さんと私の原稿、「である調」は、読者 A さんと鈴木さんの原稿ですが、どちらが、読者にとって読みやすいか、今後、読者の意見を聞いてみたいと思います。

木村さんは、昔、「茨城県図書館ネットワークシステム」の構築の仕事に携わり、それは、図書館利用者にとって、大変、便利で、効率的な検索ができるシステムであり、自宅のパソコンから、茨城県立図書館の HP にアクセスし、「文献検索欄」に書籍名か著者名を入力すれば、目的とする書籍が、茨城県内の区市町村図書館のどこに所蔵されているかが、一瞬にして分かり、茨城県立図書館以外の所蔵であれば、「茨城県図書館借貸制度」により、所定の手続きをすれば、入手でき、私も、何度か、利用したことがあります。

私は、広報 G の作業として、基本的な問題把握のため、茨城県立図書館の全体会で入手した茨城県立図書館職員名簿と同ボランティア名簿を基に、同ネットワークシステムに、ひとりひとり、計 200 人の氏名を入力し、著書の有無を検索し、さらに、国会図書館に対しても(区市町村図書館は、予算の範囲内で書籍の購入をしているため、すべての書籍を網羅していません

が、国会図書館は、書籍の質に関係なく、日本の文化として、すべての出版物を所蔵)、同様の検索をしたことがありますが、ヒットしたのは、ボランティアの中山真一さん(原子力関係教科書の監修の言葉 1 ページ。当時は、原子力機構の幹部で、現在、東大特任教授)と私(単独著書 37 冊、茨城県立図書館には 25 冊所蔵。当時も現在も、茨城新聞社客員論説委員)でした。

広報 G の調査力と問題把握能力は、トップクラスであり、半端ではありません。

茂木さんと読者 A さんと鈴木さんの原稿に対しては、記事の最後に、「編集者注」として、感想を記しておきました。

武田さんは、学者であった父親の書齋を見ながら成長し、父親が亡くなったいまでも、貴重な書籍を整理できず、捨てられないまま時間が過ぎていく中、いまの茨城県立図書館の業務とのかかわりの中で、昔の記憶と今の図書館の業務が二重写しになっているように読み取れ、いまでも昔の記憶の中で楽しんでいるように感じました。学者の書籍は、亡き後、多くの例では、公立図書館に寄付するのが一般的です。

私は、通信紙を編集する過程で、昔、お世話になった全国紙の論説委員や出版社の編集者の意見を聞いており、可能な限り、客観性を維持しつつ、独自性とオリジナリティを表現したいと考えていましたが、いまでも、頭に描いた理想的な内容には、なっておらず、あえて言えば、理想の 80% のできであり、もう少し、何とかならないものかと、思いつつ、精進していますが、すでに、担当して 8.5 年が経過しており、はじめをつけねばならない時期にあります。

桜井 淳